

情報に対する批判的思考態度が充実感およびキャリア意識に及ぼす影響

井上 侑美¹ 吉田 富二雄²

現代は変化が激しく、働く個人自らが自立的にキャリア形成を行う時代である。自分なりに納得したキャリア形成をするためには、どのようなパーソナリティや態度が有効であろうか。本研究では、批判的思考態度・私的自意識、及び開放性・誠実性を取り上げ、キャリア意識・充実感にどのような影響を与えるかを検討した。批判的思考態度は外的な情報に対する対応スキルであり外的キャリアへとつながり、私的自意識は自己の内的な情報に対する感受性と捉え、内的キャリアへとつながると考えた。大学生・大学院生・社会人（30歳前後）を対象とした調査の結果、(1)キャリア意識や信頼・時間的展望（充実感）については、批判的思考態度が強く影響している(2)自立・自信（充実感）については、私的自意識が強く影響している(3)開放性と誠実性（パーソナリティ）は直接的にも間接的にもキャリア意識と充実感を支える要因となっている、ということが示された。将来の見通しをもつためには外的な情報を客観的に分析する批判的思考態度が重要となるが、同時に内面の情報への感受性（私的自意識）を高めることで、その人なりに納得したキャリアの選択が可能となることが示された。

キーワード：批判的思考態度、私的自意識、キャリア意識、充実感

問題と目的

研究の背景

現代は、変化が激しく不安定な時代である。外的な状況でいえば、国際競争の激化や急速な技術革新による経営環境の変化、それに伴う離転職の可能性の増大など、働く個人自らがキャリアの選択をしなければならない機会が増えている。現代の日本においては、労働力人口減少のために働き方改革が提唱されており、企業の取り組みもさることながら、個人が自立的に働いていくことも求められている。「働く未来2035報告書（厚生労働省, 2016）」では、将来的には各個人が自分の意思で働く場所・時間や、ライフスタイルを選べる時代になる、と報告されている。また、“企業はミッションや目的が明確なプロジェクトの塊となり、人が事業内容の変化に合わせて柔軟に企業の内外を移動する形になっていく”と述べられている。したがって、今後の日本社会では、個人自らがどのようなキャリアを生きるか選択が迫られることになる。

一方、内的な状況についていえば、Savikas(2015)はキャリア構築理論を唱え、今までの標準化された人生パターンは、個別化された自分なりの生き方に置き換えられるべきだと主張している。個人は、自己の志向性と社会的役割に矛盾が生じた際、今までの経験を意味付け直したり、なんらかのアクションを通して新

しい意味を創造する。そうすることで矛盾を解消し、人生のストーリーを書き換え、自分なりのキャリアを形成していく。これからの時代は、そのようにして柔軟にキャリアの再構築を続けていかなければならない、とSavikasは述べている。

このように、個人を取り巻く状況は変化しており、それに伴い外的・内的の両側面からキャリアの捉え方を見直す必要があると考えられる。では、改めてキャリアとは何だろうか。キャリアの定義は用いられる分野により異なるが、知識やスキルを身に付けつつ、過去から現在、そして未来に繋がる連続性を内包した概念である、という点で共通している（金井, 2015）。キャリアは外的と内的の2つの側面から捉えることができ、外的キャリアとは職業や組織内でのあり方に限定していた、職業的キャリアともよばれる概念とみることができる。内的キャリアとは、人生全体を意識し、仕事や余暇を含んだ個人の生涯にわたる生き方で、ライフキャリアや生涯キャリアと呼ばれる概念と考えることができる（渡辺, 2007）。

キャリアに関する先行研究の中で、安達（2004）は、正社員として就労したことの無い学生を対象に調査を行った結果、受身的な姿勢は職業未決定と関連すると述べている。また、厚生労働省（2007）は、『生涯キャリア支援と企業のあり方に関する研究会』報告書の中で、学生のキャリア教育が十分でない、様々な情報に流され、自らの資質と進路とのミスマッチが深刻化すると指摘している。学生の間に将来どうありたいか積極的に考えることが、自分なりに納得のいく選択を

1 東京成徳大学大学院心理学研究科

2 東京成徳大学

可能にすると言える。さらに山本（1994）は、就労者のキャリア意識について調べており、就労者は日常の職務目標だけでなく、将来のキャリアへの目標を強くもつことが、日常の職務改善や、職務に対する認知的・情緒的・行動的な関与を活発化する、と報告している。また、「平成28年度能力開発基本調査（厚生労働省）」においては、正社員に対する調査を行い「自分で職業生活設計を考えていきたい」「どちらかといえば考えていきたい」が合計で68.0%となっており、主体的に職業生活設計を考えていきたい、という意識が高率となっている。

それぞれの研究におけるキャリアの定義は異なるが、どの世代においてもキャリアについて積極的に考え見直しをもつことが長期的に見ても適応的であるといえる。では、具体的にどのような個人特性や態度だが、現代のキャリア形成に有効であるといえるだろうか。

仮説モデルの構築

本研究では、外的なキャリア選択のために重要となる態度として批判的思考（critical thinking）を、内的なキャリア選択の際に必要な意識として私的自意識をとりあげ、これらがキャリア意識や充実感とどのような関連があるかを検討したい。さらに、背景にある個人特性も関与すると考え、特にキャリア意識に影響を及ぼすであろう開放性と誠実性をBIG5からとりあげる。柔軟に自らのキャリアを考える際、様々な経験や情報に対して開かれている開放性は重要であり、また、目標を定め追求していくためには、誠実性も必要であるためである。これらの個人特性と態度がキャリア意識や充実感につながることを図式化するとFigure1のようになる。本研究ではこのモデルを検証することを目的とする。



Figure 1：本研究の概念図式

まず、過剰で矛盾した情報があふれている現在の状況下で、適切な情報選択を見直しをつけるためには、批判的思考態度が重要であると考え。Ennis(1985)によれば、批判的思考とは自分の推論過程を意識的に吟味し、何を信じ、どう行動するかを決定することに焦点を当てる反省的・合理的な思考である。また、気持ちを介入することなく、どの視点にたっているか考慮しながら、客観的に推論する思考でもある（Ennis, 1996）。さらに、批判的思考力は、メディアリテラシー

といった生活にかかわる情報を読み解く能力を支えている、と考えられている（楠見, 2011）。しかし、批判的思考は外的な情報を客観的に処理することができ、外的キャリア形成には繋がるが、それだけでは納得のいくキャリア形成はできない。自分の内的欲求に気が付き、その欲求と外的情報をすり合わせることで、自らにとっての最適な選択が可能となるからである。

内的な欲求への感受性としては、本研究では私的自意識をとりあげる。Fenigstein, Scheier, & Buss (1975)によれば、自意識には私的自意識と公的自意識がある。私的自意識とは自己の内面である感情や気分などに注意を向ける程度を示すものであり、公的自意識とは自己の外見や言動など、他者からどう見られているかに注意を向ける程度を示すものである。私的自意識の高い人は、自分自身の意見や気持ちを自覚しているため、態度と行動の一貫性が高いことが示されている（Scheier, 1980）。自らのキャリアに関わるような大きな選択をする際は、私的自意識が高く、自分の内面に開かれている方が、内的キャリアの形成に繋がりが、より納得できる選択ができるだろう。

以上がFigure1の態度であるが、上記に加え、現在の生活への充実感も追加することで、個人特性と態度が、今現在の生活の充実感、さらには将来への見直しにつながるキャリア意識に影響を及ぼすか検討したい。

先行研究では、キャリア構築理論は個々のストーリーに焦点が当てられているため、質的研究が主となっている。そこで本研究では、キャリア構築理論で望ましいとされる、変化の多い時代をいかに乗り越えるかに焦点をおいたキャリア意識の醸成が、上記で述べた個人特性と態度にどのように影響されるか、量的研究を行うことを目的とする。

方 法

調査対象者

A大学の大学生113名（男性35名、女性78名：平均年齢19.2歳）を対象に講義時間に質問紙を配布する集合調査法を実施した。

また、B大学院の大学院生30名（男性13名、女性17名：平均年齢25.9歳）を対象に質問紙を配布し、回答を求めた。更に、社会人42名（男性12名、女性30名：平均年齢31.0歳）を対象に、WEBのアンケートツール（Questant）を使い、回答を求めた。

調査期間

2017年7月～2017年10月

調査項目

質問紙は①パーソナリティ ②批判的思考態度 ③私的自意識 ④充実感 ⑤キャリア意識の5領域を測定す

Table 1: キャリア意識11項目の因子パターン行列

項目番号と項目名	平均値(SD)	F1	F2	h2
第一因子: キャリア成長意識				
自分のキャリアを広げるために、つねに情報を集める努力を怠らないようにしたい	3.76(0.937)	.782	.036	.613
キャリアを磨いていくためには努力、時間を惜しまないようにしたい	3.66(1.047)	.766	.144	.608
自分のキャリアの中で成長しているという感覚を持ちたい	3.98(1.003)	.755	.263	.639
キャリアに必要な資格を一つひとつ積み重ねていきたい	3.74(0.925)	.702	-.158	.517
自分のやってきたことを、つねに振り返る努力をしたい	3.71(0.967)	.701	.168	.519
必要時は自分のキャリアを見直すという心構えをもっていたい	3.61(0.995)	.689	.174	.505
勇気をもって、自分のキャリアを変えていきたい	3.47(1.044)	.622	.441	.581
自分なりの納得感をもって、仕事をしたい	4.38(0.797)	.470	.454	.427
第二因子: キャリア自立意識				
定年まで安定して働ける、公務員のような仕事にとりあえず就きたい*	2.99(1.248)	.074	-.785	.622
数年ごとに振り返って、自分のキャリアを修正していきたい	3.94(0.899)	.465	.558	.527
あまり組織に依存しないで、自分なりに生きていきたい	3.78(1.017)	.052	.464	.218
因子寄与率		4.058	1.718	
因子寄与率(%)		36.89%	15.62%	

5:全くそうである~1:全く違う

る尺度と、フェイスシート（性別・年齢・職業）で構成されている。5領域（53項目）の全ての尺度項目について、自分に「あてはまらない」から「あてはまる」までの5件法で回答するよう求めた。

①BIG5 開放性、誠実性を測定する尺度：

NEO-PI-Rの開放性因子からは「知的好奇心が強い」「抽象的な考えを楽しむことがよくある」など8項目、誠実性因子からは「明確な目標に向かって、整然としたやり方で取り組んでいる」「やるべきこと全てにおいて、志を高く持ってがんばる」など8項目、計16項目を選択。

②批判的思考態度を測定する尺度：

平山・楠見（2004）の批判的思考態度尺度の4因子〈論理的思考への自覚〉〈探究心〉〈客観性〉〈証拠の重視〉から、「複雑な問題については、順序立てて考える傾向がある」「いろいろな考えの人と接して多くのことを学びたい」「自分が無意識のうちに偏った見方をしていないか振り返るようにしている」「判断を下す際は、できるだけ多くの事実や証拠を調べたい」など10項目を選択。

③私的自意識を測定する尺度：

菅原（1984）の私的自意識尺度から「自分が何にしているか、知ろうと努めている」「自分は何が好きで何が嫌いか、よくわかっている」など7項目を選択。

④充実感を測定する尺度：

大野（1984）の充実感尺度から〈充実感気分〉〈自立・自信〉〈信頼・時間的展望〉3因子について、「生活が充実感で満ちていて、楽しい」「私は主体的に生活していると思う」「私は、私なりに価値のある生活をしていると思う」など9項目を選択。

⑤キャリア意識を測定する尺度：

Savikas(2015)のキャリア構築理論に基づき、「数年ごとに振り返って、自分のキャリアを修正していきたい」「キャリアに必要な資格を一つひとつ積み重ねていきたい」「勇気をもって、自分のキャリアを変えていきたい」など、望ましいとされている態度11項目を作成し、どの程度賛同できるかによりキャリア意識を測定した。大学生に尋ねるときは、10年後の自分をイメージして回答するよう求めた。

結 果

キャリア意識尺度の構成

キャリア意識11項目について、因子分析（主因子法・バリマックス回転）を行い、2因子を抽出した。因子パターン行列はTable1に示す。まず第1因子について見ると、「キャリアを広げるために、情報を集める」「自分のキャリアの中で成長している感覚を持ちたい」などの8項目に高い負荷量が見られた。従って「キャリア成長意識」の因子と解釈した。次に第2因子に目を移すと、「定年まで安定して働く公務員のような仕事」「数年ごとにキャリア修正」「組織に依存しない生き方」の負荷量が高く、「キャリア自立意識」の因子と解釈した。各因子から構成される尺度の信頼性は、第1因子（ $\alpha = .855$ ）、第2因子（ $\alpha = .293$ ）であった。

各心理特性における、大学生・大学院生・社会人の比較

各心理特性（開放性・誠実性・批判的思考態度・私的自意識・充実感・キャリア意識）について大学生・大学院生・社会人を要因とする1要因分散分析を行った。分散分析の結果を整理すると以下の通りである（Figure2）。

(1)誠実性を除いた全ての尺度について、1%水準の有意差が見られた。

(2)誠実性を除いた5つの尺度について、その平均値は大学院生>社会人>大学生の順であった。ただし、多

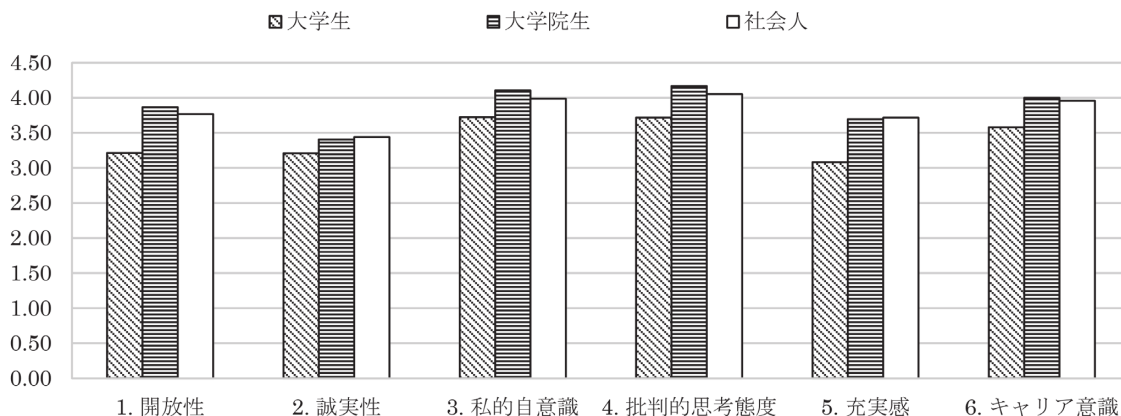


Figure 2：各心理特性における平均値の差

	1	2	3	4	5	6
1. 開放性	-	-0.004	0.378***	0.434***	0.376***	0.340***
2. 誠実性		-	0.434***	0.398***	0.416***	0.457***
3. 私的自意識			-	0.612***	0.491***	0.539***
4. 批判的思考態度				-	0.482***	0.642***
5. 充実感					-	0.465***
6. キャリア意識						-

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

Table 2：諸変数間の相関

重比較の結果、大学院生と社会人の間には有意差はなく、大学生との間には有意差がみられた。

Figure2にみられる通り、開放性、私的自意識、批判的思考態度、充実感、キャリア意識の全てについて、大学生に比べて大学院生や社会人の意識が高い。特に、私的自意識、批判的思考態度に関しては、大学院生の値が高い。職に就き日々職務をこなしている社会人に比べ、これから社会に出る段階の大学院生は外的・内的な情報に対する意識が高いようである。

各心理特性の関連

6つの心理特性の関係をみるために、Pearsonの相関係数を計算した (Table2)。主な結果を整理すると、以下の通りである。

- (1) キャリア意識は、開放性、誠実性、私的自意識、批判的思考態度、充実感と有意な正の相関を示した。特に、批判的思考態度と私的自意識はそれぞれ高い相関 (.642, .539) を示した。
- (2) 充実感は、開放性、誠実性、私的自意識、批判的思考態度、キャリア意識と有意な正の相関を示した。
- (3) 批判的思考態度と私的自意識は、高い相関を示した (.612)、自分の内的な情報に対する意識の高い人は、外的な情報に対しても高い意識を持つことが明らかになった。
- (4) 個人特性の開放性と誠実性については、相関がみられず、2つは独立したものであるといえる。

仮説モデルの検証

個人特性 (開放性、誠実性) を第1水準、態度 (批判的思考態度、私的自意識) を第2水準、キャリア意識 (キャリア成長意識、キャリア自立意識) と充実感 (充実感気分、自立・自信、信頼・時間的展望) を第3水準 (目的変数) とするパス解析を、重回帰分析の繰り返しによって行った。結果はFigure3とFigure4に示す。

まず、キャリア成長意識について見ると、開放性は批判的思考態度を介しキャリア成長意識を促していた。また、誠実性はキャリア成長意識を直接促進すると共に、批判的思考態度を媒介することで、よりキャリア成長意識の促進に寄与していた。次に、キャリア自立意識について言えば、開放性と誠実性は直接キャリア自立意識を促進すると共に、批判的思考態度を強めることで、キャリア自立意識に影響を及ぼしている。私的自意識はキャリア成長意識とキャリア自立意識に直接影響を及ぼさなかった。

次に、充実感についてみると、充実感気分については個人特性の開放性と誠実性が促進的に働いているが、批判的思考態度は無関係である。自立・自信については、開放性も誠実性も共に直接強める働きを示すだけではなく、私的自意識を高めることによって、より自立・自信に影響を及ぼしている。内的な情報に対して意識が向いている方が、自立・自信を促進することが明らかとなった。批判的思考態度は、充実感気分や自立・自信とは無関係であり、外的な情報への態

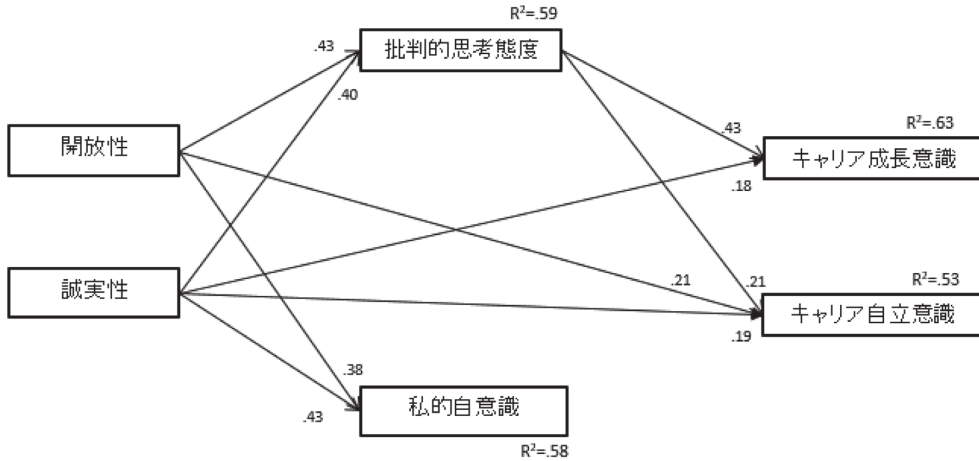


Figure 3：個人特性、態度、キャリア意識のパス解析図

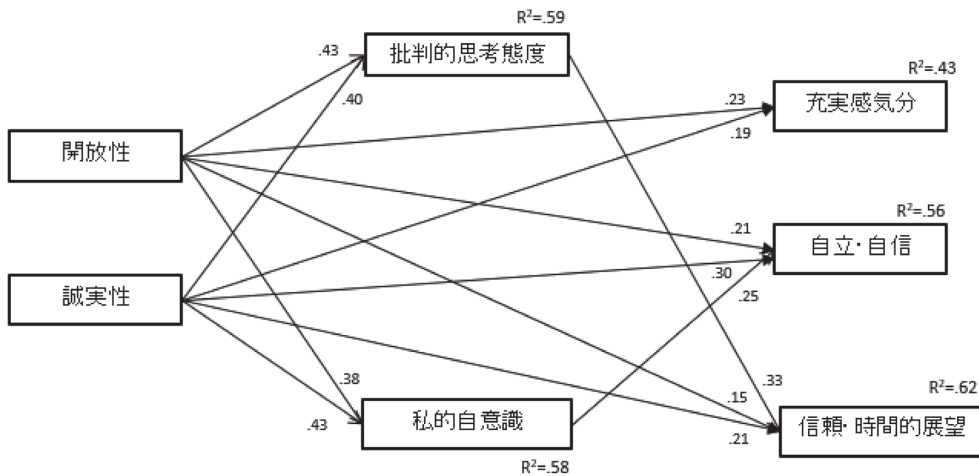


Figure 4：個人特性、態度、充実感のパス解析図

度は気分や自分自身への評価について影響を及ぼさないことが示された。信頼・時間的展望については、開放性と誠実性がプラスの影響を及ぼすだけでなく、共に批判的思考態度を高めることを通して、信頼・時間的展望を促進する。

以上のことから、キャリア成長意識、キャリア自立意識、信頼・時間的展望など、将来の見通しに関する事柄については、外的な情報への態度である批判的思考態度が強く影響していることが示唆された。自立・自信については、内的な情報に対する意識である私的自意識が強く影響していた。また、開放性と誠実性は批判的思考態度と私的自意識共に影響を与えているだけでなく、批判的思考態度・私的自意識を通すことで、キャリア意識や充実感を強めていることがわかった。

考 察

仮説モデル

本研究の結果から、まずキャリア意識に関していえば、(1)情報に対する批判的思考態度は、「キャリアを磨くために努力・時間を惜しまない」「キャリアの中で成長している感覚を持ちたい」などのキャリア成長意識、及び「組織に依存せず生きたい」というキャリア自立意識に促進的な影響を持つことが示された。(2)個人の開放性・誠実性は共に直接あるいは批判的思考態度を介してキャリア意識を促進することが明らかになった。(3)ただし、私的自意識はキャリア意識と直接的な関係を持たない。

また、充実感について言えば、(1)私的自意識は、「主体的に生きている」「自分なりの生き方に自信がある」という自立・自信の感覚を強める影響を及ぼしている。

(2)批判的思考態度は、「将来やってみたいことがたくさんある」「私なりの目標がある」という信頼・時間的展望の感覚を促進する影響を持っている。(3)個人の開放性・誠実性はここでも充実感3因子の全てに直接影響を及ぼしている。(4)ただし、「毎日の生活にハリがあって楽しい」という充実感気分に関しては、批判的思考態度も私的自意識も直接的な関係を持たなかった。

総括すると、批判的思考態度はキャリア意識や信頼・時間的展望の感覚に影響を及ぼし、私的自意識は自立・自信の感覚に影響を及ぼしている。また、個人の開放性と誠実性は直接的にも間接的にもキャリア意識と充実感を支える要因となっている、と言える。以上のことから、〈開放性・誠実性→批判的思考態度→キャリア意識・信頼・時間的展望(充実感)〉〈開放性・誠実性→私的自意識→自立・自信(充実感)〉という本研究のモデルは確認された。

批判的思考態度と私的自意識

現在のように情報が溢れている状況で、将来どうありたいか目標を定め、「ありたい自分」から逆算し、今すべき行動を明確にするためには、批判的思考態度が重要であることが明らかになった。平山、楠見(2004)は、批判的思考態度尺度には〈論理的思考への自覚〉〈探究心〉〈客観性〉〈証拠の重視〉の4因子で構成されているとしている。また、楠見(2013)は批判的思考のプロセスを①情報を明確化する、②推論するための土台を検討する、③推論を行う、④意思決定や問題解決をする、の4段階であると述べている。外部の情報への感受性を高めることで様々な情報に触れ、証拠に基づいて吟味し、その情報をもとに先入観にとらわれず客観的、そして論理的に考えることで、見通しをたてるのが可能になるといえる。このような見通しを持つことが、変化への鋭敏な対応を可能にし、キャリア意識や信頼・時間的展望に促進的に働くと考えられる。批判的思考は思考のプロセスであり、スキルであるため、教育や本人の心がけにより習得が可能なものである。変化の急速な社会に適応するためには、情報を鵜呑みにせず、批判的に思考する態度をもつことが望ましいといえる。

私的自意識に関しては、「自分に何が向いているのか知ろうと努めている」「自分の気持ちの動きをつかんでいたい」といった内面の情報への感受性は、「主体的に生きている」「自分なりの生き方に自信がある」という自立・自信(充実感)の感覚を強めることが明らかとなった。

批判的思考態度は外部の情報を客観的に分析し、有益な情報を得、外的キャリア形成に役立つが、それだけでは充実感には繋がらない。内面の情報、つまり、自らの内的欲求に耳を傾けることで、自分にとって本

当に必要な情報とは何かが明らかとなり、内的キャリア形成へとつながる。そして、外的情報と内的情報をすり合わせることで、外的にも内的にもその人なりに納得した選択が可能となるのではないだろうか。この選択は更に、人生の大きな発達課題を乗り越えることにもつながり、充実感にも影響すると考えられる。

開放性・誠実性

興味深いことに、開放性・誠実性の両者とも批判的思考態度・私的自意識とキャリア意識・充実感に対し、同じような影響を及ぼしていた。開放性は興味関心が広く想像力に富み、臨機応変さが可能なパーソナリティ特性であり、誠実性は、几帳面で計画性があり勤勉なパーソナリティ特性である。ほかの3因子に関しては調査項目に含めなかったが、見通しの立たない未知の変化に対応していくためには、外向性のようにただ活動できて積極的であることよりかは、開放性のようにより好奇心が強い方が有効である可能性がある。堀越(2006)は30～32歳を対象にした研究において、開放性は環境変化への積極的な対応行動に影響を及ぼすと述べており、この結果とも一致する。さらに、そうした好奇心を着実に目標につなげていくためには、一歩一歩勤勉に努力を積み上げていく誠実性のような特性が必要であると考えられる。開放性と誠実性は両輪となってキャリア形成に機能していると考えられる。

キャリア意識と発達課題

キャリア選択は発達課題の一部である。Levinson, D.J.(1978)は、17-22歳を成人への過渡期と位置づけ、成人としての可能性の模索、暫定的選択などがこの期間に行われる、と述べた。実際、新卒の就職活動はこの時期に行われ、キャリア選択をする上で情報を積極的に得、同時に自己分析をすることが推奨されている。大学生の批判的思考態度・私的自意識・キャリア意識は大学院生・社会人に比べると低い値を示していたが、これは社会的な経験が少なく、キャリアに対する意識を持ちにくい時期であることが推察される。

Levinson, D.J.によると、28-33歳は30歳の過渡期と位置づけられ、現実に即した生活構造の修正、新しい生活構造の設計などが行われる時期である。批判的思考態度・私的自意識・キャリア意識全ての結果において社会人は高い値を示したが、これはある程度の社会的経験を積み、今のままで良いのか、自分には何が向いているか、何をしたいのか、ということを意識し始め、今後のキャリアの方向性について考える時期であるためだと考えられる。結婚などのライフイベントも発生する可能性が高く、自分自身のことだけでなく、家族のことも考える必要がでてくる重要な転換期でもある。今現在の生活を大切にしながらも、いかに目標を達成するか、どのように生きていきたいか、という

ことに意識を向けながら、キャリアを積み上げていく時期であると考えられる。

このように、発達課題に伴いキャリア意識も変化し、個人のキャリア形成にも影響を及ぼすと考えられる。そして、自分なりに納得のいく選択をすることで、その発達課題を乗り越えていくといえるだろう。

今後の課題

本研究では、サンプル数の関係上、大学生・大学院生・社会人すべてのデータをまとめて分析しモデルの検証をおこなった。しかし、各心理特性における平均値の差では、誠実性を除いたすべての項目で大学院生や社会人の方が大学生よりも高い値を示した。このことから、私的自意識の高さが充実感に影響し、さらに批判的思考態度の高さがキャリア意識に影響を及ぼしていると考えられる。今後はさらにデータを取り、3グループ間の違いを検討したい。

今回の研究で、外的な情報を客観的に分析する批判的思考態度と、内的な欲求への感受性を示す私的自意識の感覚がキャリア選択には重要であることが明らかになった。外的な情報と内的な情報のすり合わせは一度だけすれば良いわけではない。時間が経ち環境が変われば、必ずズレが生じ、その矛盾に苦しむことになる。個人はその都度、外的な情報の分析を行い、同時に内的な意識に注意を向けることで、自分なりに最適な選択を行い、人生のストーリーを書き換え、自分なりのキャリアを積み上げていくのである。このプロセスは、まさにSavikasがキャリア構築理論で述べたことであり、人生の中で、何度も繰り返し行われるものであると考える。

引用文献

- 安達 智子 (2004). 大学生のキャリア選択—その心理的背景と支援— 日本労働研究雑誌 46 (12), 27-37.
- Ennis, R.H. (1985). Logical basis for measuring critical thinking skills, Educational Leadership, 43 (2), 44-48.
- Ennis, R.H. (1996). Critical thinking dispositions: Their nature and assessability, Informal Logic, 18 (2), 165-182.
- Fenigstein, A., Scheier, M. F., & Buss, A. H. (1975). Public and private self-consciousness: Assessment and theory, Journal of Consulting and Clinical Psychology, 43 (4), 522-527.
- 平山 るみ・楠見 孝 (2004). 批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響—証拠評価と結論生成課題を用いての検討— 教育心理学研究 52 (2), 186-198.
- 堀越 弘, 渡辺 三枝子 (2006). 成人前期におけるキャリア環境変化対応性への影響要因—生涯キャリア発達の視点に立つて— 経営行動科学 19 (2), 163-174.
- 金井 篤子 (2015). ライフ・キャリア構築 臨床心理学 15 (3), 313-318.
- 厚生労働省 (2007). 『生涯キャリア支援と企業のあり方に関する研究会』報告書 厚生労働省職業能力開発局.
- 厚生労働省 (2016). 「働き方の未来2035～一人ひとりが輝くために～」報告書 労働政策担当参事官室.
- 厚生労働省 (2017). 平成28年度「能力開発基本調査」職業能力開発局総務課基盤整備室.
- 楠見 孝 (2011b). 市民の心理学リテラシー調査: 知識, 態度, ニーズ. シンポジウム—心理学の社会への貢献とは— 日本心理学会第75回大会発表論文集, JPAL(1)
- 楠見 孝 (2013). 良き市民のための批判的思考 心理学ワールド (61), 5-8.
- Levinson, D.J. (1978). Seasons of a Man's Life, Ballantine Books.
- 大野 久 (1984). 現代青年の充実感に関する研究—現代日本青年の心情モデルについての検討— 教育心理学研究 32 (2), 100-109.
- Questant, <https://questant.jp/>,株式会社マクロミル
- Savickas, L.M. (2011). Career Counseling. American Psychological Association. (サビカス, L.M., 乙須敏紀 (訳) (2015). キャリア・カウンセリング理論—<自己構成>によるライフデザインアプローチ— 福村出版)
- Scheier, M. F. (1980). Effects of public and private self-consciousness on the public expression of personal beliefs. Journal of Personality and Social Psychology, 39 (3), 514-521.
- 下仲 順子, 中里 克治, 権藤 恭之, 高山 緑 (1998). 日本版NEO-PI-Rの作成とその因子的妥当性の検討 性格心理学研究 6 (2), 138-147.
- 菅原 健介 (1984). 自意識尺度 (self-consciousness scale) 日本語版作成の試み 心理学研究 55 (3), 184-188.
- 渡辺 三枝子 (1990). 新版 キャリアの心理学—キャリア支援への発達のアプローチ— ナカニシヤ出版
- 山本 寛 (1994). 勤労者のキャリア意識とキャリア上の決定・行動との関係についての研究 経営行動科 9 (1), 1-11

—2018.1.27受稿, 2018.3.2受理—

Effects of Critical Thinking on Sense of Fulfillment and Career-Consciousness

Yumi INOUE (*Graduate School of Psychology Tokyo Seitoku University*)

Fujio YOSHIDA (*Tokyo Seitoku University*)

Career development depends on each laborer themselves in the rapidly changing modern society. What kind of personality and attitudes are effective for developing the satisfactory career? This research aimed to examine how career-consciousness/ sense of fulfillment are affected by critical thinking/ self-consciousness, and openness/ conscientiousness. Critical thinking was defined as a skill to evaluate the external information, and self-consciousness was defined as a susceptibility to one's needs. Undergraduate students, graduate students, and laborers (around age of thirty) responded to a questionnaire. (1) career-consciousness and reliance/time perspective (subscale of sense of fulfillment) were affected by critical thinking, (2) self-reliance/confidence (subscale of sense of fulfillment) were affected by self-consciousness, (3) openness and conscientiousness (personality) both directly and indirectly supported career-consciousness and sense of fulfillment. It was found that critical thinking was necessary for future perspective by analyzing the external information objectively. Also, enhancing susceptibility to one's need (self-consciousness) enabled satisfactory career selection.

Key words: critical thinking, self-consciousness, career-consciousness, sense of fulfillment

Bulletin of Clinical Psychology, Tokyo Seitoku University
2018, Vol. 18, pp. 22-29